

内閣不信任案否決

与党と維新・国民が反対

立憲民主党が提出した岸田内閣に対する不信任決議案は九日の衆院本会議で自民、公明両党などの反対多数により否決された。野党である日本維新の会や国民党なども反対に回った。共産党や社民党は賛成し、れいわ新選組は棄権した。立民が同時に提出した

細田博之衆院議長の不信任案は与党の反対で否決された。維新と国民は棄権した。立民の泉健太代表は内閣不信任案の趣旨弁明で、物価高対策を巡り「国民生活の苦境を放置しているのは許されない。ガソリン補助以外は経済無策だ」と訴えた。「格差を広げるアベノミクスが継続されている。不信任に値するのは明白だ」と批判。外交について

は、立民の岡本章子氏は趣旨弁明で、週刊誌が報じた細田氏のセクハラ疑惑について「説明責任を一切果たしていない」と指摘。衆院

討論で「岸田文雄首相は国民生活の安定、世界の平和と秩序の回復に向けて不断の努力を重ねている」と強調した。自民の上川陽子氏は反対討論で「岸田文雄首相は国数増の主張も問題視し、不適任だと断じた」。

自民の丹羽秀樹氏は反対討論で「週刊誌報道に便乗した不信任案は全く理解に苦しむ」と述べ、提出に踏み切った立民の姿勢に疑問を呈した。

二つの不信任決議案に対する各党ごとの賛否

○不信任案に賛成 ×不信任案に反対
—棄権・退席

岸田内閣 衆院議長
不信任案 不信任案

自民党	×	×
公明党	×	×
立憲民主党	○	○
日本維新の会	×	—
国民民主党	×	—
共産党	○	○
れいわ新選組	—	—
社民党	○	○

中、ロシアや中国と直接対話ができるいないとし

は、国際情勢が緊迫化する

小選挙区定数「十増十減」